第２回釧根地域将来像検討委員会

委員意見概要

○田村委員

●将来像は、現状の延長線上に将来をつくる必要はない。新しい価値観や住まい方をつくっていくのだという議論を発信したら面白いのではないか。

●多様性がキーワードになる。海と山と酪農だけではなく、釧路を中心とした製造業や情報拠点、金融なども含めて、釧路の役割のとらえ方は多様性が一つのヒントになる。

●道内の６つの圏域の中で釧根の特異性、道東全体における釧根地域の位置づけというものをどう理解していくのか。多様性という意味は、道内６圏域の中でどういう多様性を持つのかということもある。

●将来像の中には北海道中でつくれそうなタイトルがあるので工夫が必要だ。例えば、東アジアとの連携で新しい産業を起こす、ゆとり社会や成熟社会を先取りして新しい価値観からなる市場をつくるなど、これらをうまく織り交ぜるとよいのではないか。

●札幌から遠いということは、室蘭からみると羨ましい。札幌に依存するということがあまり無い。そういう文化を認めて、うまく煽っていけばいいのではないか。

●我々は海外に行けば行くほど面白いと思う。その奥行きも全部含めて、同じことをこの地域で東南アジアの人々のためにやってみる。そうすると一挙に花開くのではないか。

○石橋委員

●自然だけが売りではない。むしろこの地域は自然も大事にしながら、この地域の独特の文化をつくるという視点が必要で、それが観光にも結びつき、その文化の付加価値を付けた地域の産品をつくっていくということにもつながる。

●観光客は祝日にどっと来ていなくなってしまうが、年間通して自由に休日をとることができるような休日のつくり方、ゆっくり休日を楽しむことができるようなあり方をつくっていくということが、大事な問題ではないか。

●町村合併が一つの区切りを迎え新たな方向に向かうと思うが、釧路・根室圏は知床の連峰から浦幌の大地に囲まれた一つの地域であり、地域特性を一つのものとして考えた時の行政と、そのなかでそれぞれ独自の町村が連携して地域運営をするという発想をもっていくべきではないか。

●企業責任と最近言われるが、農協は農村社会をつくる地域責任を持つ立場にある。農協が地域づくりのために行政と一緒になって積極的に関わりを持つということが、これからの地域づくりには一番大事なのではないか。

●農協がもっている資金力をどう活かして地域づくりのために使っていくかということをやっていかなければならない。

○辻中委員

●時間が経つごとにその価値が高まっていくような道路づくりができないだろうか。道路は経済の大きな動脈であるが、それと同時に文化の道と言うこともできる。

●どこに行っても同じガードレール・防雪柵ではなく、全部防雪林帯に変えてみると道路の表情が出てくるということになるのではないか。そうすると観光資源としても地域の大きな特色ができるのではないか。

○大島委員

●いい道路の周りに住んでいる人や通る人の満足度を道路整備の中の便益として計量的に評価するようなシステムがないので、同じような道路をつくってしまう。

●満足度というものを計量的に評価して、投資の評価の中に入れて、その価値を積算するようなシステムをつくれば地域特有のものができてくる。

●この地域は人口の重心が圏域の南にあり、非常に偏った条件にある。社会基盤整備の時には、もう少し広域的な視点で整備をしていく必要がある。

●連続立体交差で土地がつながることによる長期的な効果には、普通の事業評価、便益評価では計り知れない効果がある。地域の南と北の長期的なつながりという視点から、もう一度考えてみる必要があるのではないか。

●地域資源の高付加価値化の取り組みが必要である。例えば、水産資源を医薬品や健康食品に応用するなど、そういった産業と連携するような取り組みが大きな産業に育つ余地は十分にある。そのためには、付加価値を高めるための仕組み、組織づくりが必要になる。

●観光については、リピーターの数を調べる必要があるのではないか。海外には、観光が中心となってマネジメントし、イベントの誘致や楽しませる観光などで、観光のまちとして成功している事例がある。そういう仕組みをつくり、もっとリピーターを増やす方向に考えると、将来像のイメージがふくらむのではないか。

○近藤委員

●これを住民が読んだ時に 10 年後、20 年後にこの地域がとてもわくわくするような地域で非常に素晴らしい地域だとみえるかどうか。なかなかここからは読み取れない。

●ここに継続的に住みたいと思えるような地域になることが、地域住民にとっては一番重要なことだ。

●そういう面では夢に近いような部分でもいいので、他の地域とは全く違ったこういう特異性のある、非常に素晴らしい地域になるということを書き込んでいくとモチベーションもあがり、いい地域になっていくのではないか。

○宮田委員

●農業や漁業でにおいて徹底的に高付加価値化にチャレンジできないか。他の地域にない高品質で、安全なものを徹底的につくっていく。それを地元にある企業を使って、人手をかけないで加工するなど、大事なことは地域にある題材で、できることをやるということだ。

●地元にある優れた企業、地域の金融やビジネス経験の豊かな地域のシニアなどの力を借りて、マーケティングや販路拡大、あるいは商品の高付加価値化ができるようにクラスターを戦略的につくっていくことが必要になる。

●例えば道路の話では、海外ではガードレールに木を使っているところもあるが、この地域にも耐久性・強度のある木をつくっている会社がある。地域内でつくり、戦略的にその技術をどんどん伸ばしていくというように、インフラ整備にビジネスをのせていく仕組みによって、地域内の新しい付加価値をつくる企業がどんどんできる。

○栗林委員

●この地域は、自然と共生して生きていくべきだが、本当に自然をみせるのではなくて、陰では色々な技術を使って自然らしさをみせる、というように、いやらしく自然と共生していった方がいいのだろう。

●道東で同じ悩みを抱えている地域がある中で、北海道の中でも道東でしかできないというものをみつけるべきではないか。他には真似できないことをやりたいと思う。

●遊び心を是非入れて欲しいと思う。例えばこの地域は観光地間の距離があるが、その合間に、知床に行くと道路から知床旅情が流れるなど、何らかのかたちの遊び心を入れることによって、もっともっと人を遊ばせることができるのではないか。

○出村委員

●釧根地域にある豊富な資源を結びつけていくためには、小さい単位で考えることが必要で、漁業や農業と観光とを結びつけるスポットを集積させるのがよい。

●農業や環境を考える場合に、河川の流域（川上、川下）という考え方をするが、北海道の道路網というのはよく発達しており、大きな道路網があるので、流域という概念を当てはめることができる。

●道路網という大きな動脈に資源を結びつける。小さい点をたくさんつくり結びつけることで広いエリアをカバーできるのではないか。

●例えばアニマルウェルフェアとツーリズムを結びつけるなどのように、ツーリズムと他の活動を結びつけるということが、この地域では色々なところでできるのではないか。釧根地域はツーリズムの見本市のようにツーリズムがある、そういう取り組みも必要なのではないのか。

○小磯委員長

●域外・域内市場のバランスが取れた産業活性化方策の中で、この釧路・根室の新しい力のある産業をより強くしていくというところに、食産業や観光産業などを位置づけながら、今後の将来像に向けてのシナリオやスキームづくりをして欲しい。

●地域の自立は収支のバランスであるが、これからは公共投資や農業用補助金でバランスをとることが段々難しくなることから、移出産業としての観光業の役割が高くなる。

●観光業は地元の資源を使って成り立たせることが可能であり、自然環境資源を有効に活用しながら、食産業と連携することがこの地域では展開できる。そのなかでインフラ整備がどうあるべきかということを今後検討して欲しい。